

仏典における比丘尼のデータベース構築 及びその伝記の研究

DASH Shobha Rani

1. 問題提起

「仏教と女性」というテーマは、仏教の中でも最もよく議論される問題の一つであり、現在これはグローバルな問題になってきている。しかし、その中で出家した女性としての比丘尼に関する研究は仏教学の分野ではあまり注目されていない。Theravāda 仏教や大乘仏教のいずれにも比丘尼の伝記に関して第一資料を十分に整理した上での研究は多くはない。仏教における女性差別や戒律についてはいくつかの優れた研究があるが、比丘尼の伝記についての研究はそれらに比べ非常に立ち遅れていると言わざるを得ない。

Pāli 三蔵の中に現われる比丘尼たちの伝記とその出典に関しては、G. P. Malalasekera 氏の *Dictionary of Pāli Proper Names*（全二巻）や赤沼智善氏の『印度仏教固有名詞辞典』が非常に有名な文献である。しかし、これらが出版されてから既に数十年が経過しており、その後の研究の進展に従って、付加すべき情報もある。例えば、マハーパジャーパティの死に関して *Dictionary of Pāli Proper Names* にその出典が見られなくて、『印度仏教固有名詞辞典』においては『大正新脩大蔵経』第2巻にある出典のみが指摘されている。次は、Susan Murcott 氏の *The First Buddhist Women: Translations and Commentary on the Therīgāthā* (Parallax Press, Berkeley, California, 1991) と最近出版された *First Buddhist Women: Songs and Stories from the Therīgāthā* (Parallax Press, Berkeley, California, 2006) も原始仏教の比丘尼たちの伝記を主に述べているが、その出典が殆ど示されていないため、研究資料として参考する

には問題がある。そして、2005年に東京の中央学術研究所より出版された『原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究』第10巻（中央学術研究所、東京、2005年）は豊かな情報源ではあるが、資料の分析が主体となっている。ここではこれらの研究を踏まえた上で文献上に現れる比丘尼の伝記の記述をそのままの形で提示する。詳しくは構造のところで述べる。

一方、デジタル化された研究資料であるが、先述の Malalasekera 氏の *Dictionary of Pāli Proper Names* は現在ウェブ公開もされている (<http://www.metta.lk/pali-utils/Pali-Propor-Names/>)。しかし、殆どの文字が符号無方式で表示されるため、研究利用に充分であるとは言えないであろう。次は、インドの Igatpuri にある Vipassanā Research Institute によって作製された「Chaṭṭha Saṅgāyana」という Pāli 三蔵の完全版 CD-ROM は有名であるが、これもまた Pāli 三蔵のみに限られていて、さらにその中に比丘尼に関する記述をまとめた独立した情報は存在しない。そして、大乘仏教に関しては、大正新脩大蔵経のデジタル化された完全版が台湾の Chinese Buddhist Electronics Text Association (CBETA <http://www.cbeta.org>) よりウェブ公開されているが、それは漢文テキストのみに限られている。ここにもまた、比丘尼に関する記述をまとめた独立したデータが存在しない。

このように、Pāli 文献や漢文テキストいずれにも比丘尼の伝記に関する整備された研究は見当たらない。多少あるものも、パーリ語か漢訳テキストかどちらかに限っている。両方の言語の資料が含まれた研究は非常に少ない。原始仏教の比丘尼たちの様々な記述が集中した形で見られるのは *Therī-Apadāna* や *Therīgāthā* 及びその注釈である。しかし、これ以外の現存する文献にも比丘尼の記録が数多く散在している。これらの散在したデータを一カ所に集めたら、*Therī-Apadāna* や *Therīgāthā* 及びその注釈に述べられている伝記の興味深い点がより明らかになると思う。

将来的に、筆者は、比丘尼全体の伝記のデータベース構築を目指している。今回は、仏教と比丘尼の発祥の地であるインドにおける比丘尼の伝記を取り上げる。釈尊と共に生きた原始仏教の比丘尼たちの伝記の研究は比丘尼

という存在、また、その原初的な形態の研究のためにも欠くことができない。さらに、後の時代や他の地域の比丘尼の研究を行うためにも必要になってくると思う。

このような観点から、比丘尼に関する散在している資料を収集してデータベースを構築し、比丘尼の伝記を新たな視点からみつめる必要があると考えている。

2. 比丘尼の伝記と典拠データ

当研究の主要目的は、パーリ三蔵とその注釈類に見られる比丘尼に関する情報を集め、それらを整理した形で提供することにある。まず、比丘尼についての情報を PTS 版のパーリ語文献から抽出し、比丘尼ごとに個別のファイルを作成した。この際、固有名を持たない比丘尼については「その他」のファイルにまとめた。そして、漢訳仏典、サンスクリット語文献では *Mahāvastu Avadānam* やその他に *Mahāvamsa* と *Dīpavamsa* の対応する部分にも目を通し、関連する情報を原文を書き込む形でファイルに追加した。さらに、関連する論文などの情報も逐次追加した。なお、漢訳文献からの情報収集には大正新修大蔵経の CBETA 版を利用した。

出典やページ番号などは通常の形で注に表記されている。しかし、より詳しく原文を求める方のためにそれぞれの注に原文のファイルがリンクされている（図⑥・⑦・⑧を参照）。このようにして、幅広い範囲の一次資料を整理して容易に入手できるようにすることによって様々な言語で表記された文献データ収集の障害を除くことで比丘尼の研究に役立てることが本データベースの大きな特徴である。

さらに、詳細に述べている伝記の幾つかの重大な項目が一目でわかるように、各比丘尼の個人データを含めた簡易データベースも構築している。これを見れば、各比丘尼の名前、カースト、経済地位、関連地、それは都会であったかあるいは田舎であったか、家系、出家動機などが一覧に付され一目でわかる。そして各個人データファイルの最後にその比丘尼の伝記のページ

がリンクされている。まとめて言えば、基本データのページと伝記のページがあって、各比丘尼のデータページの最後にそれぞれの詳細な伝記のページがリンクされている。これを作ることによって比丘尼たちに関する様々なデータ、そして彼女たちにまつわる伝記が階層構造として構築されわかりやすくなると思う（図⑤を参照）。

このようにしてすべての比丘尼たちの詳細データをリンク状にまとめて一カ所で見ることによって、今まで見えなかった新たな事実が明らかになるのではないかと考えている。

このデータベースは比丘尼、すなわち出家者としてのエピソードだけではなく、一人の在家女性であった時代のエピソードも広く含めていることを特色としている。例として、マハーパジャーパティの事例をあげてみたいと思う。彼女の伝記は、彼女の名前の由来や家系から般涅槃（*parinibbāna*）や葬儀まで述べている。一人の比丘尼としてだけではなく、一人の在家信者としても、彼女の人生の主要な出来事がとりあげられている。例えば、生まれてまもなく母を失った釈尊を育てるために自分の生まれたばかりの息子ナンダ（Nanda）を乳母に任せたこと、彼女の仏法への厚い信仰と努力の結果史上最初の比丘尼になったこと、彼女の葬儀は釈尊の葬儀よりもとても素晴らしかったこと、そして前世に一人の在家信者として仏教への信仰などが一次資料に基づき述べられている。

仏教学の研究者のみではなく、比丘尼や女性と仏教に関心を持ってもらえる一般の方々にも理解していただけるように、用語集のページを作成して、仏教専門用語などを簡単に説明している。このようにすることによって、使用者は仏教辞典などが手元になくても、仏教や比丘尼の伝記をある程度理解することができるかと思う。

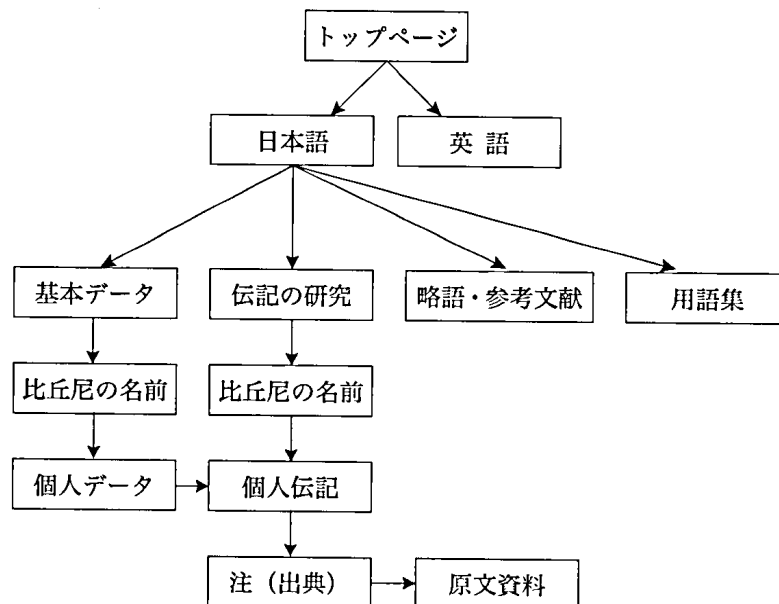
3. データベースの構築

データベース全体の構築を簡単に述べさせていただく。トップページに日本語のページと英語のページが表記されている（図①を参照）。各ページに

「基本データ」、「伝記の研究」、「略語・参考文献」と「用語集」この4つの項目がある。「基本データ」の項目から比丘尼の名前のページが開かれ、各比丘尼の名前がアルファベット順で表示される。なお、固有名が記されていない比丘尼たちは「その他」に含まれている（図③を参照）。次は各比丘尼の名前からそれぞれの個人データページが開かれる（図④と⑤を参照）。そして、そのページの最後に「伝記」のページがリンクされているので、個人データを読んでその比丘尼についてより詳しく知りたいと思う方のために便利である。

「伝記の研究」の項目からも比丘尼の名前のページが開かれ、各比丘尼の名前がアルファベット順で表示できるようになっている。次は各比丘尼の名前からそれぞれの個人伝記のページが開かれる。そして、本文中の注番号をクリックすれば出典の部分が表示される。最後に、その注番号をクリックすれば原文資料が表示されるようになっている。

データベースと伝記の研究の全体レイアウトは下記の通りになる：



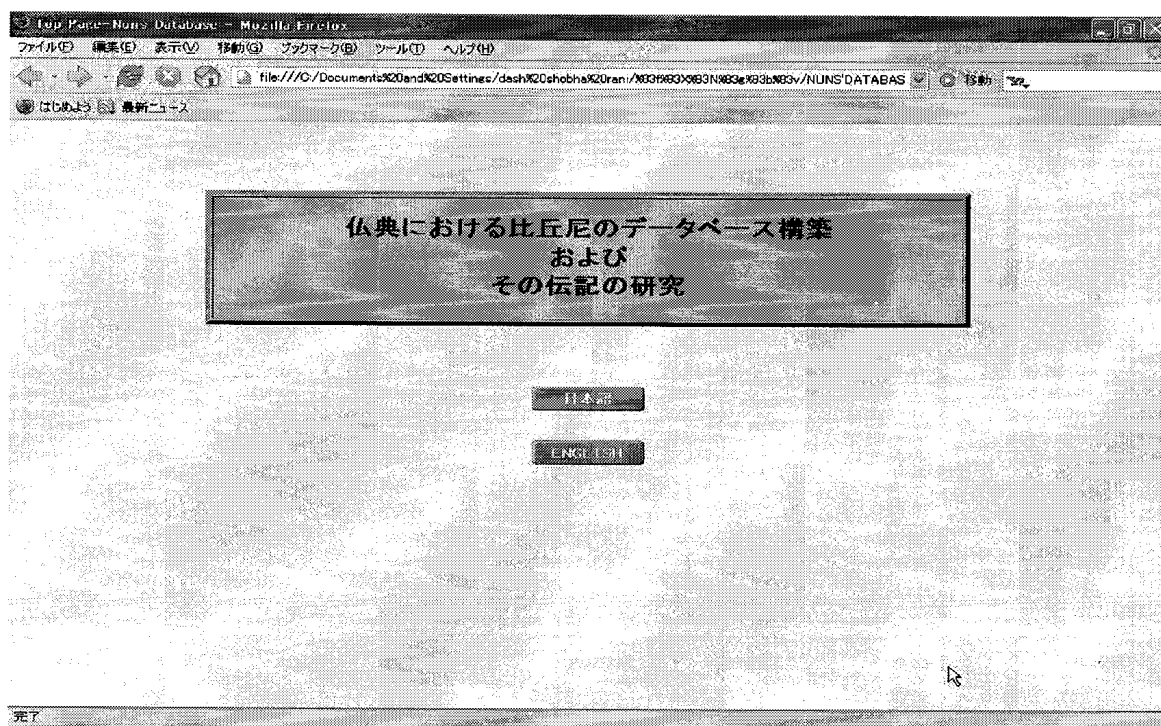
このような方法で、比丘尼に関するデータを整理して作成された伝記をハードコピーと URL へのアクセスによって公開して、第三者の利用を可能にすることを計画している。これを利用するにあたっては次のように使って

いただくことになる。

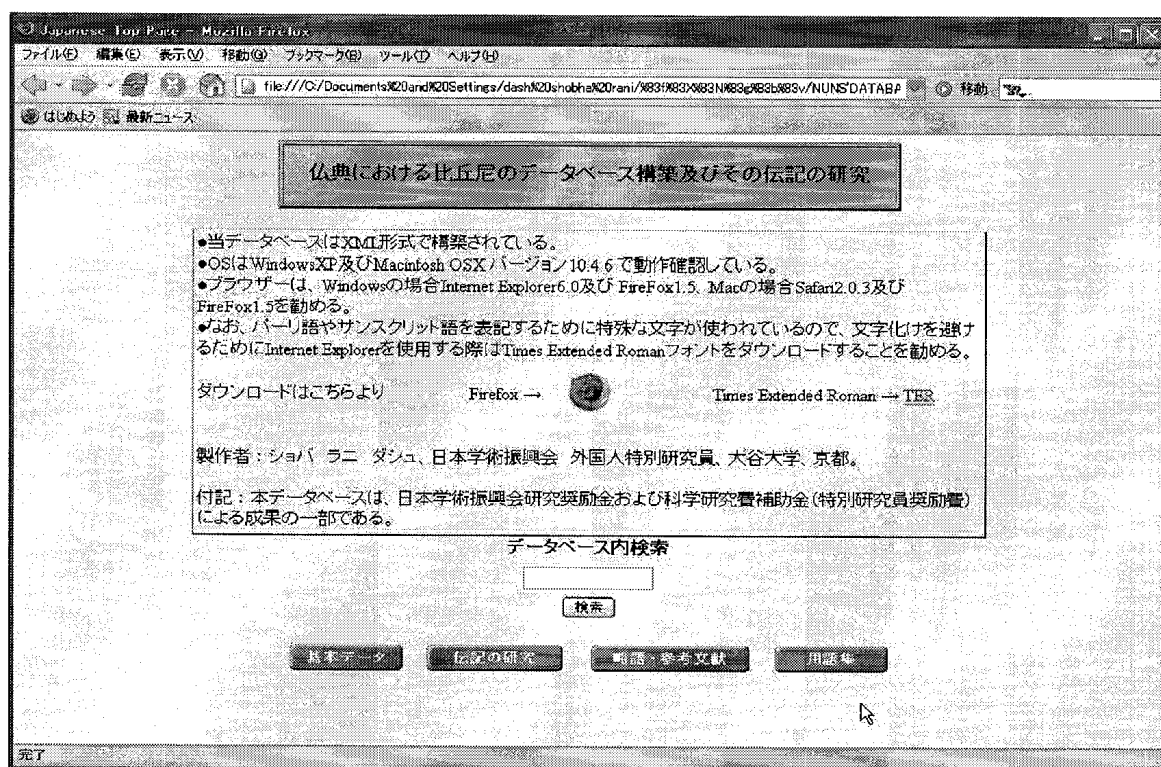
誰でも簡単に利用できるように、データベースをXML形式で構築し、ウェブ公開をする予定である。文字コードはUTF-8になっている。OSはWindows XP及びMac OSXバージョン10.4.6で動作確認済みである。ブラウザは、Windowsの場合Internet Explorer6.0及びFireFox1.5、Macの場合Safari2.0.3及びFireFox1.5をお勧めする。なお、パーリ語やサンスクリット語を表記するために特殊な文字が使われているので、文字化けを避けるためにInternet Explorerを使用する際はTimes Extended Romanフォントをインストールすることを推奨する。使用者は自分の環境に合わせて便利な方法を選ぶことができる。出典の原文を必要としない方はInternet Explorerでも十分に利用できるが、出典の原文を読みたい、または資料として印刷したい方はFireFoxを使用するかあるいはTimes Extended Romanフォントをインストールした方がよいと思う。初心者のために、FireFoxとTimes Extended Romanフォントを簡単にダウンロードできるようにダウンロードサイトをリンクしている (<http://www.mozilla-japan.org/products/firefox/> ; <http://www.bcca.org/services/fonts/tFont.exe>) (図②を参照)。

4. ま と め

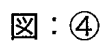
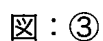
このようにして、本研究は比丘尼の伝記に関する充実した第一資料を提供することを目的としている。情報学の進展に基づき、そして使用者の利便性のために、柔軟に対応できるシステムになっているかと思う。比丘尼の系統がまだ残っている国々の資料も徐々に加えて行って、比丘尼の多言語の研究環境をつくる予定もある。多言語の様々なデータが一カ所に収集されれば、新たな研究課題を生み出すに間違いはない。本データベースは近日中に大谷大学のホームページにおいて公開される予定である (<http://web.otani.ac.jp/cr/nunsdatabase/>)。



图：①



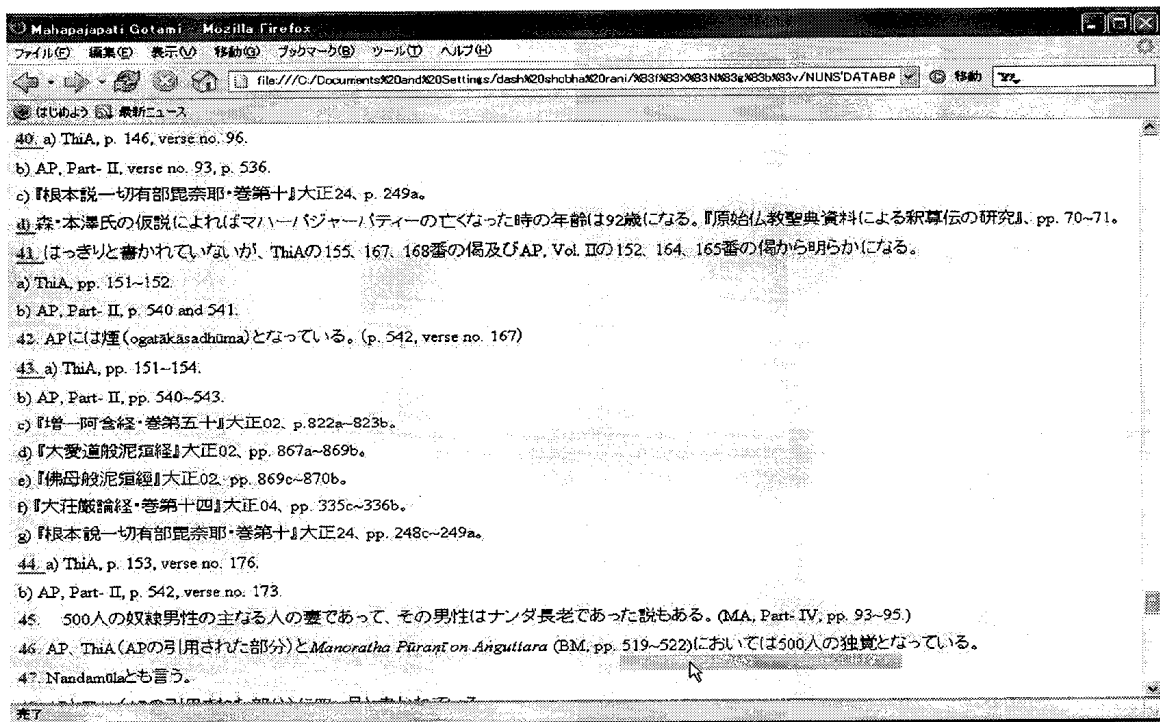
☒ : ②



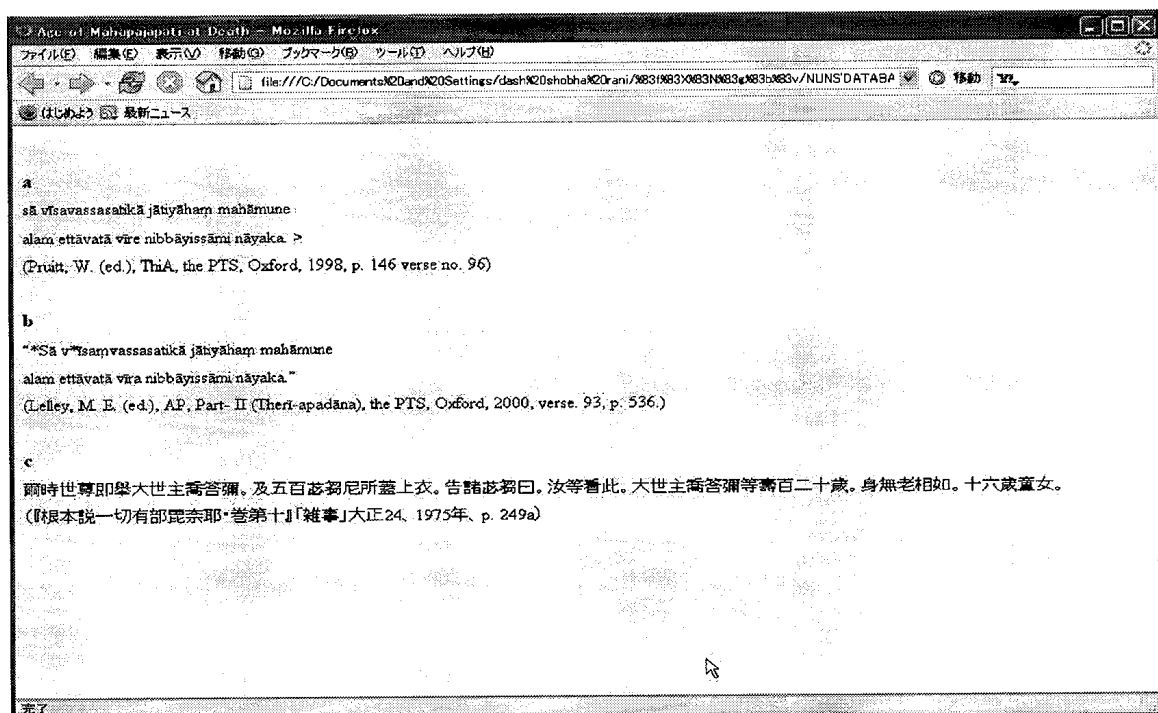
	file:///C:/Documents%20and%20Settings/dash%20shobha%20rani/NE3rNE3v/NE3NNB3eNE3bNE3v/NUNSDATP	移動	
母:	スラクカナー(Sulakkhaṇā) [AP, II] ヤソダラー(Yasodharā) [MV, JM]		
父:	アンジャナサッカ(Añjanasakka) [AP, II, MV, JM] マハーッスバブッタ(Mahāsūppabuddha) [ThA, AA] スプーティ(Subhūti) [Mva]		
兄弟:	ダンダパーニ(Dandapāni)とスッパブッタ(Suppabuddha) [MV]		
姉:	マハーマーヤー(Mahārṇaya)		
夫:	スッドダナ王(Suddhodana)		
息子:	ナンダ(Nanda)		
娘:	ナンダー(Nandā)		
義理の息子及び甥:	釈尊		
関連地:	デーヴァダハ(Devadaha)、カピラヴァットゥ(Kapilavattu)		
都会／田舎:	都会		
カースト:	クシャトリア		
位:	王妃		
経済地位:	上		
出家の動機:	恐らく釈尊の説法の影響		
伝記			

图：⑤

图：⑥



図：⑦



図：⑧

【付記】本データベースは、2005年度日本学術振興会研究奨励金および科学研究費補助金（特別研究員奨励費）による成果の一部である。